

令和 7 年 12 月 日
大阪府立西浦支援学校

令和 7 年度 学校教育自己診断アンケート（報告）

【保護者アンケートの方式について】

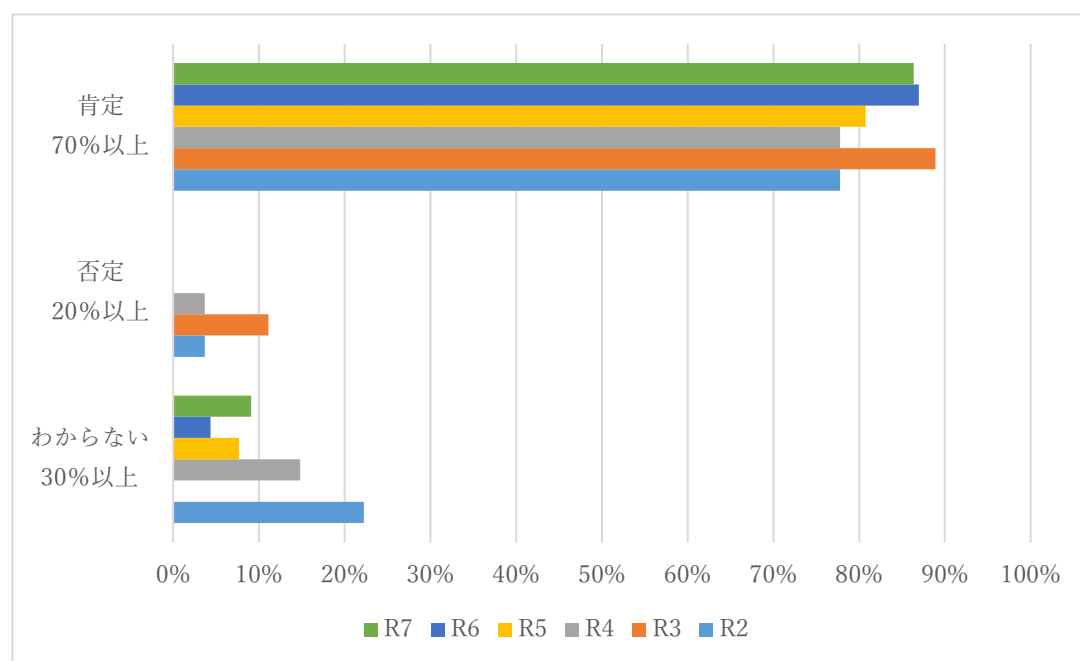
アンケート方式	Web 入力フォーム		
設 問 数	22 問		
設問カテゴリ	○子ども・保護者の支援に関すること ○教育活動に関すること ○学校運営に関すること		
回 答 方 法	A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない E：わからない		
分 析 方 法	A/B：肯定的意見	C/D：否定的意見	E：わからない

【回答率と回答傾向について】

本調査は令和 7 年 10 月 22 日から 10 月 29 日の期間に実施しました。回答率が低かったために期限を延長して改めて回答をお願いしたところ、71%の方から回答が得られました。回答率は一昨年度から 33%、58%、71%と改善傾向にあります。

否定的な意見が 20%を超えた項目は、3 年連続で一つもありませんでした。特に今年度は、全項目で否定的な意見が 10%以下でした。その分「わからない」の割合が増えた設問があり、学校の教育内容について十分に発信できていない部分があることが分かりました。

【意見の分布について】



【肯定的意見について】

全項目における肯定的意見の割合が 70%以上の設問は全 22 問中 19 問と全設問の 86%で、昨年度に同水準でした。この 3 年間で肯定的意見が増加してきている項目として「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」が挙げられますが、進路指導は将来の充実した生活にとって重要なものであり、この結果に満足せず引き続き進路指導を充実させていく必要があります。

【否定的意見について】

全項目における否定的意見の割合が 20%以上の設問は今年度 0 問、昨年度 0 問、一昨年度 0 問と良い状態が続いています。ただし「学校は、担任の先生以外にも気軽に相談できる場所を設けている」等、否定的意見の割合が 10%に近い設問が複数あります。否定的意見は児童生徒・保護者からの貴重な「改善の要求」ですので、しっかりと受け止めて改善策を講じてまいります。

【「わからない」について】

『西浦支援学校の取組みの進捗状況』の提示により、多くの設問で「わからない」が低い水準を保っています。しかしながら、「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」、「学校は、担任の先生以外にも気軽に相談できる場所を設けている」、「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」の 3 項目は、30%前後の方が「わからない」と回答されています。児童生徒が安心して過ごせる学校づくり、保護者も安心して児童生徒を送り出せる学校づくりを進め、皆さんに知っていただく取組みを実施してまいります。

【子ども・保護者の支援に関する項目について】

「学校は、子どもの障がいについてよく理解している」については、肯定的意見の割合が昨年度 89%、今年度 91%と特に低いわけではありませんが、否定的意見が 8 %と比較的高い水準で推移しています。全ての保護者に肯定的意見を持っていただくべき項目であり、研修を実施したり、学校外で受講した研修を伝達する機会を作ったり、保護者との情報共有を丁寧に行ったりするなどして、児童生徒の障がい理解を進めてまいります。

【教育活動に関する項目について】

一昨年度新設した「学校は、タブレット型端末などの ICT 機器を効果的に活用している」については、肯定的意見の割合が 72%とほぼ横ばいが続いています。生成 AI 等の情報サービスが普及する現在、児童生徒が ICT スキルや情報モラルを高めることは重要です。費用面から一気には進められませんが、プロジェクター等を整備して ICT 機器を授業で活用しやすい環境を整え、効果的な活用を進めてまいります。

【学校運営に関する項目について】

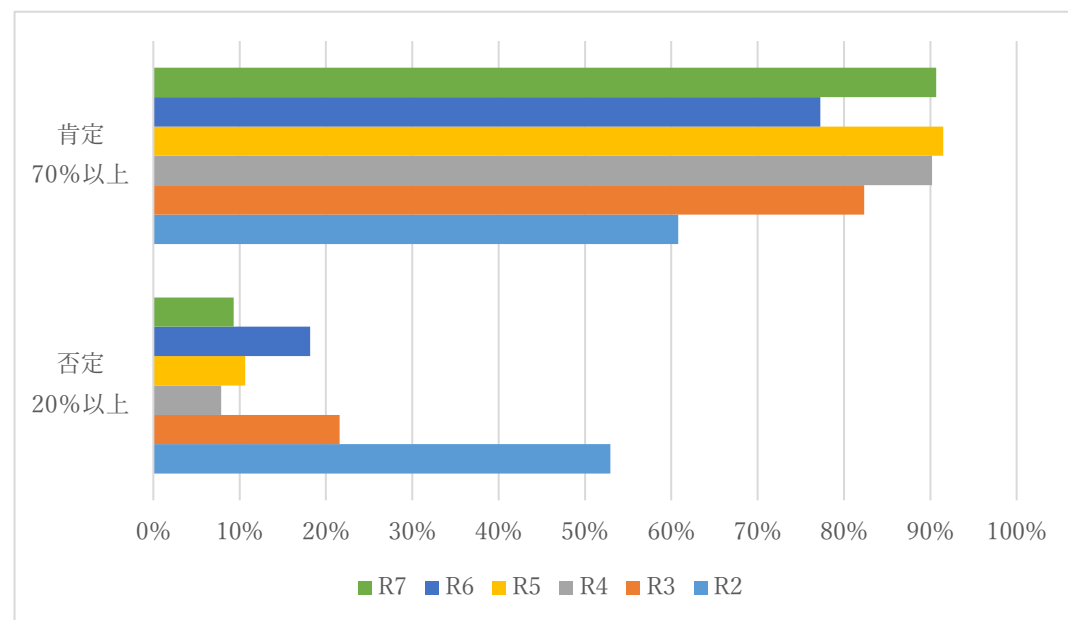
「学校は、ホームページやブログなどの活用も含め、学校の様子を伝える努力をしている」については、昨年度よりブログ更新の頻度を高めるなどして教育活動の様子をお伝えする努力を続けており、否定的な意見が減少傾向にあります。今後もぜひ学校ホームページのブログをご確認ください。

【教職員の回答について】

「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている」、「道徳教育は、全体計画に基づき、計画的に行っている」の設問で、肯定的意見が増加しました。大阪府教育センターの人権研修を受講した教員が講師となって本校で伝達講習を行う取組みを始めたこと、道徳教育推進教師が学校全体の道徳教育の全体計画を取りまとめて示したことが、その要因であると考えられます。子どもの人権に関わる部分ですので、今後もこういった取組みを続け、教職員の人権意識を高めてまいります。

「教育活動に必要な情報について、児童生徒・保護者や地域への周知に努めている」、「情報提供の手段として、学校のホームページやブログなどが活用されている」で肯定的意見が増加しました。全教員が自身の授業の様子を年に一度はブログに掲載するという取組み等を行っており、教育活動の様子を発信するよう努めているという自覚が現れたものと考えられます。ただし、「いじめへの対応」「担任以外の相談先」「他校の児童生徒との交流」については、およそ3人に1人の保護者が「わからない」と考えているという結果を受け止め、さらに充実させていく必要があります。

また、「校長・准校長のリーダーシップ」「適性・能力に応じた校内人事」「人材育成」等に関する設問で、肯定的意見の割合が10%以上増加しました。今後も管理職を中心に、教職員が自身の能力を存分に発揮して教育活動が行えるような、風通しの良い学校組織づくりを進めてまいります。



【全体考察】

保護者アンケートについては、大きく悪化した設問もなく、全体として良好な結果でした。また、回答率が前回58%から今回71%と改善し、多くの保護者のご意見を聴取することができたと感じています。今後も学校教育自己診断の実施形態や実施時期も含めて、一人でも多くのご意見がいただけるよう工夫してまいります。

また、以下のようなご意見がありましたので、今後の参考にさせていただきます。

○授業や支援、指導に関すること

- ・知的障がいが軽度の児童生徒よりも、重度の障がい児教育に力を注いでほしい。同じペースで授業時間が進められるため、置いて行かれてしまって登校を嫌がることにつながっているように感じる。
- ・重度の知的障がいがあっても分かりやすい授業の工夫をお願いしたい。
- ・苦手な教科がある日は登校を嫌がる。授業教室に入るのと違う過ごし方の選択肢があると嬉しい。
- ・修学旅行のしおりに【楽しそうだったこと、頑張っていたこと、不安定やトラブルになったこと、移動時の様子、就寝時の様子、食事メニュー】等の項目があれば、担任の先生も様子を記入しやすく、保護者も宿泊時の様子がよく分かってよいのではないかと思った。
- ・学習面、就職面に力を入れた授業内容・体制を重視する傾向になっていると感じる。支援学校なのだから、障がいの重い生徒も過ごしやすい、ゆとりのある授業時間の設定なども考えてほしい。

○その他

- ・学校からのお知らせが多すぎると感じる。表題で区別できたり、色分けやフォルダ分けができるよう工夫をしていただきたい。見返したい情報を探すのに時間がかかる。
- ・体育大会の予備日を設けてほしい。頑張って練習しているので、雨で中止というのは気の毒に思う。
- ・子ども自身が言葉で伝えられないため、セクハラやいじめのアンケートを配られてもどうしようもない。改善してほしい。

【学校運営協議会より】

- ・保護者アンケートの「子どもの障がいについてよく理解している」の設問で否定的意見が8%というのは、少数ではあるが保護者が自分の子どもの障がいについて理解されていないと感じている方がいるということであり、課題として捉えてほしい。
- ・保護者アンケートの「担任の先生以外にも気軽に相談できる場所」に関する設問で『わからない』が多いのは「気軽に」の捉え方が人によって異なることもあるし、担任以外の教員とはつながりがなく相談しにくいことが要因ではないか。
- ・保護者アンケートの自由記述で、「重度の障がい児教育にも力を注いでほしい」という意見が複数あり、ブログ等での広報を含め何らかの形で応えてほしい。